

平成30年度 事業報告

1 概要

総務省の統計によれば、我が国の高齢者(65歳以上)の就業者数は、2017年の段階で807万人と過去最多となり、高齢者の就業率は14年連続で上昇し続けている。これは、少子化により労働力人口が減少基調にあることを背景として、企業において継続雇用制度の導入など高齢者雇用確保措置の取組が進んでいる結果であると考えられる。

その影響もあり、シルバー人材センターへの入会者数は減少傾向となっている。全国シルバー人材センター事業協会の調べによると、日本全体の会員数は、平成21年度末の791,859人から、平成29年度末の713,746人まで減少している。

当センターにおいても、会員数は平成21年度の2,044人をピークに減少傾向が続いており、平成29年度は1,721人まで減少したが、平成30年度末においては、前年度比3人増の1,724人となり、久しぶりに増加に転じた。しかし、会員の高齢化が進む中で、健康上の理由により退会する者の数は増える傾向にあり、今後、退会者数は増加することが予想される。

一方、平成30年度の事業実績は、請負事業では664,121千円となり、前年度比0.8%増、金額にして5,404千円の増となった。その大きな要因としては、区の高齢者福祉サービスのしおり「たんぽぽ」の全戸配布業務(実績約800万円)を区から受託したこと等により、公共の事業実績が前年度比3.9%増となったことが挙げられる。

その反面、民間の事業実績は、大規模な自転車駐車場管理業務や大手スーパーのカゴカート整理業務等が終了したため、前年度比2.1%の減という結果となった。

そうした中であって、マンション清掃業務などの屋内清掃業務や家事援助業務の受注が増加しており、屋内清掃業務にあつては前年度比8.6%増の97,931千円、家事援助業務にあつては前年度比8.4%増の9,438千円の実績があつた。

また、労働者派遣事業については、平成29年度をもって錦糸町駅南北地下自転車駐車場の派遣契約が終了になったことに伴い、約4,600万円減の26,488,378円となった。しかし、前年度は派遣事業を利用した発注者は5団体のみであつたが、平成30年度には15団体に達し、着実に派遣事業はその裾野を広げつつある。

こうした実績を踏まえ、就業意欲を持つ高齢者の入会促進を図り、今後受注が見込まれる事業等への会員を確保するとともに、新たな就業分野の開拓を進め、「生涯現役社会」の実現に寄与する公益団体として、高齢者の能力を活かした活力ある地域社会づくりに取り組んでいく。

2 会員状況・事業実績等は後記のとおり。

3 諸会議の開催

(1) 定期総会

1回

(2) 臨時理事会	1回
(3) 理事会	12回
(4) 地域班長会議	4回
(5) 安全管理委員会	4回
(6) 入会説明会	12回
(7) 総務部会	10回
(8) 事業部会	6回
(9) 広報部会	18回
(10) 合同部会（総務部会・事業部会）	1回
(11) 地域班連絡会議	19回
(12) エンジョイ家援隊会議	12回
(13) 就業適格性審査委員会	2回

4 事業の実施内容

(1) 普及啓発活動の推進

ア 会員広報誌として「シルバーすみだ」を年4回発行した。

イ 区のお知らせ、区勢概要、私の便利帳等の区刊行物を積極的に活用し、事業の普及啓発に努めた。

ウ 区内循環バス内に広告を掲出し、事業の普及啓発に努めた。

エ 10月を広報活動強調月間に設定し、次の事業を実施した。

(ア) 第43回すみだまつりに参加し、事業の普及啓発に努めた。

(イ) 区内商店街や大型スーパー店等で啓発物資を配布した。

(ウ) すみだ消費生活展に参加し、就業相談を実施した。

(エ) 団地まつりに参加し、事業の普及啓発に努めた。

オ リーフレットや啓発物資を作成し、配布した。

カ ホームページにより、シルバー人材センターの紹介等を行った。

キ 平成30年10月8日～10日にすみだ生涯学習センターにおいて、老人クラブ連合会主催の作品展で会員の作品を展示した。

ク 「スポGOMI IN すみだ環境フェア 2018」に、もてなし隊をはじめとしたセンター会員が参加し、センター事業の普及啓発に貢献した。

ケ ボランティアまつりの協賛事業者として、社会福祉協議会のボランティアまつり開催プログラムにセンター記事を掲載した。

コ 「シニアしごとEXPO2018」に、センター普及啓発活動の一環として会員を中心に参加し、花体操の実演や折り紙体験を実施した。

サ てーねん・どすこい倶楽部情報誌「どすこいかわら版」に、センター紹介記事を掲載し、事業の普及啓発に努めた。

(2) 就業機会拡大のための事業、研究

- ア 就業機会拡大のための技術講習の一環として、東京しごと財団で行われる研修に会員が参加して、技能の向上を図った。
- イ 民間事業の受注拡大のため、就業開拓員が積極的にPR活動を行った。
- ウ 家事援助事業の受注拡大のため、「エンジョイ家援隊」チラシを配布する等のPR活動を行った。
- エ 第二期中期計画に基づき、発注者側の意見を聴取して就業内容に反映させることを目的として、発注者511団体（人）に対して、アンケート調査を実施した。
- オ ホームページ会員専用サイトに求人募集記事を掲載するとともに、当センター事務局に就業情報を掲示し、会員への求人情報の提供に努めた。

(3) 会員・役員研修

ア 第一ブロック（墨東五区）シルバー共催

(ア) 正副会長会議（墨田区）	1日	2人
(イ) 安全管理研究会（墨田区）	1日	2人
(ウ) 安全就業研修会（江東区・墨田区）	2日	13人

イ 墨田区シルバー主催

(ア) パソコン研修	71日	1,203人
(イ) スキルアップ研修（接遇研修）	2日	59人

ウ 東京しごと財団主催

(ア) 会長・副会長研修	1日	1人
(イ) 監事研修	1日	1人
(ウ) 新任理事研修	1日	2人
(エ) 安全大会	1日	4人

エ 業務別懇談会

(ア) 押上駅前自転車駐車場業務会議	4日	89人
(イ) スカイツリー周辺美化清掃会議	3日	30人
(ウ) もてなし隊会議	1日	9人

オ 職員研修

第一ブロック（墨東五区）共同研修の開催及び財団主催の合同研修への参加等により職員の資質向上を図った。

カ 基礎講習会

就業にあたり必要な注意点や心構えを説明するため、新入会員及び未受講の既存会員を対象にした基礎講習会を開催し、193人の会員が受講した。

キ 外国人に対しての就業現場における接遇を円滑に行うために、会員を中心に外国語対

話テキスト作成プロジェクトチームを発足させ、外国語対話テキストを作成して会員に配布した。

(4) 相談業務

ア 就業相談・発注者相談は、その都度事務所において実施した。また、区のイベント等でも高齢者の就業相談を行った。

イ ハローワーク墨田において、入会や就業に関する相談等を行う出張相談を、毎月実施した。

(5) 安全対策

ア 安全管理委員・安全対策推進員・安全就業推進員合同による安全管理委員会を開催し、安全就業の強化・推進を図るため、安全対策実施計画を策定した。

イ 7月を安全就業強化月間に定め、安全就業に関するチラシと啓発物資を配布した。

ウ 安全管理委員等による、就業現場の安全パトロールを6回（計18ヶ所）実施し、安全具の整備・点検及び実態把握を行った。

エ 安全就業強化月間の際、自転車修理を得意とするセンター会員2名により、自転車の安全点検を実施した。

オ 「シルバーすみだ」に事故防止及び健康管理について記事を掲載した。

カ しごと財団主催の安全講習会に参加するとともに、第一ブロック共同で安全管理研究会を開催し、事故原因の分析及び再発防止対策等を検討した。

キ 仕事別従事会員等において、就業中、就業途上及び帰宅途上の事故防止について呼びかけた。

ク 会員の自転車事故防止のため、警察協力のもと、京成バス奥戸営業所駐車場及び当センター駐車場にて、自転車安全運転講習会を実施した

ケ 熱中症対策のために、会員にマジクールフィット等を配布した。

コ 配分金明細書に、安全に関する啓発記事を同封した。

(6) 健康増進事業の推進

ア カラオケ教室	10回	383人
イ ウクレレ教室	24回	509人
ウ 健康体操教室	10回	286人
エ すみだ花体操教室	20回	430人

(7) 社会奉仕活動

すみだボランティアまつり、東京大マラソン、墨堤さくらまつりにボランティアとして参加し、社会奉仕活動を実施した。

(8) 労働者派遣事業

- ア 事業拡大のため、労働者派遣事業に関するリーフレットを作成し、墨田区内の事業者に配布する等のPR活動を行った。
- イ 会員に対して、労働者派遣事業の理解浸透と、派遣会員への登録を促進するため、派遣会員登録説明会を4回実施した。
- ウ 派遣就業に従事する会員に対し、入職時研修や従事会員会議等を随時実施した。